

平成十九年度 特別展

茅ヶ崎ノスタルジア

昭和30年代のまちかど



茅ヶ崎市文化資料館

Chigasaki City Museum of Heritage

主催＝茅ヶ崎市教育委員会

はじめに

近年、昭和 30 年代をテーマにした小説や映画が話題になっています。また多くの展覧会が開催されたり書籍が刊行されたり、昭和 30 年代がメディアで注目を集めています。今なぜ昭和 30 年代が注目されるのでしょうか？

昭和 31（1956）年、『経済白書』は「もはや戦後ではない」と敗戦からの復興を高らかに宣言し、高度経済成長の時代が幕を開けようとしていました。その後好景気が続き、新幹線や高速道路が整備され、昭和 39（1964）年の東京オリンピックを経て、日本の経済・社会は大きく変貌していきました。身近なところでは、冷蔵庫、洗濯機などの家電が普及し、テレビや雑誌によって新しい大衆文化が形成されていきました。

私たちは、日々暮らしを重ねて、それぞれの歴史を築き、くらしの記憶を持っています。起きて、眠り、食べて、遊び、働き、学び、苦しみ、悲しみ、そして楽しむことができました。それらは、どんな教科書よりも膨大でかけがえのない記憶です。しかし、くらしの歴史はあまりにも日常的であるため、記録として残りにくいのも事実です。

本展では、昭和 30 年代に茅ヶ崎で市民が撮影した写真や、当時のくらしの道具などを紹介することで、眠っている茅ヶ崎のかけがえのないくらしの記憶の宝箱を開き、時代の空気をそのまま感じていただくために、言葉による説明を最小限に控えました。

また展示しております資料は、市民の皆様からご寄贈いただいた貴重なものでございます。ご寄贈いただきました市民の皆様に深く敬意を表し、お礼申し上げますとともに、ご覧いただきます皆様にこの点をお汲み取りいただけますようお願い申し上げます。

最後に、今回の特別展が、郷土の歴史にふれ、現在の茅ヶ崎の新たな価値を発見する良い機会となれば幸いです。

平成 20（2008）年 2 月

茅ヶ崎市教育委員会

1

昭和 30 年代のちがさき -1955~1964 年-

終戦直後の昭和 20 (1945) 年、茅ヶ崎の人口は 39,847 人でした。その 10 年後の昭和 30 (1955) 年には、小出村合併で 3,041 人増えたのに加え、総計で 56,895 人になりました。そして、昭和 40 (1965) 年には 100,081 人となり、10 年間で 43,186 人も増えました。昭和 30 年代の増加率は 1.8 倍で、昭和 20 年代の 1.2 倍、昭和 40 年代の 1.5 倍と比較すると、増加率が一番高かった時期だといえます。

その理由の一つは、海岸地域の宅地化です。東海岸、中海岸を始め、現在の小桜町、ひばりが丘、松が丘、白浜町、菱沼海岸の宅地化がすすみ、この地域の人口は昭和 20 年代に比べ約 2~4 倍、人口が増加しました。

このようにベッドタウン化が進む中、学校や道路、下水やゴミ処理場などの新たな生活基盤の建設・整備が行われました。そして経済の高度成長の象徴であるオリンピックが昭和 39 (1964) 年に開催され、市内でも聖火がリレーされました。同年、浜見平団地が完成し海岸地域の風景だけでなく、まちのくらしが大きく変わりました。昭和 30 年代の茅ヶ崎は、戦前までの農業や漁業を生業とする人が多く暮らすまちから、大きくくらしとまちなみが変わった時代でした。



路地裏を走る少年たち:昭和 30 年代

今回の展示では、次のテーマで資料を展示しました。また写真やモノが観るものに直接伝える「昭和30年代の空気」を感じ取っていただくために言葉による説明を最小限に抑えました。

- 地図 …昭和30年代の茅ヶ崎の地図を紹介。
- 懐かしのまちかど …昭和30年代の市内のまちなみを紹介。
- 住まいの記憶 …くらしの道具や家の中での写真を紹介。
- 駅前の風景 …駅前の様子を写真で紹介。
- 駅と電車 …駅や電車に関することを写真で紹介。
- 海岸の風景 …海岸の風景や様子を写真で紹介。
- モータリゼーション …交通が発達した時代の象徴としての、自動車やその他交通にまつわる写真を紹介。
- 農業と漁業の風景 …農業や漁業に関する写真を紹介。
- 結婚と御葬式 …昭和30年代の結婚式の様子や御葬式の様子を写真で紹介。
- 学びと遊び …学校や校内の様子、子どもたちが遊んでいる様子、表情をとらえた写真や、教科書、遊び道具などを紹介。
- 絵はがき …昭和30年代の茅ヶ崎の絵はがき等を紹介。
- オリンピック …昭和39年のオリンピックの、聖火リレーの様子を写真や、記念コイン、トーチなど紹介。
- 時代を写したカメラたち…昭和30年代に使用されたカメラを紹介。



相模線の線路を歩く女性たち（昭和30年代）

昭和 30 年代（1955～1964 年）のできごと

昭和 30 年代の茅ヶ崎、国内、そして世界のできごとを年表でご紹介します。この年表は市内、国内、海外の全ての出来事を網羅しているわけではなく、時代を象徴するできごとや、「昭和 30 年代の空気」を感じ取るのに必要だと思われるものを抜粋してご紹介します。

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 30 年 (1955)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 電話交換が自動化、藤沢と即時通話が可能に ・ 茅ヶ崎市議補選紛失票問題で最高裁は屋号の投票は有効とし、差し戻し判決 ・ 香川で横穴古墳発見 金環・土器などが出土 ・ 小出村(遠藤地区以外)、茅ヶ崎市と合併決定 ・ 茅ヶ崎駅北口の駅前道路が舗装 ・ 茅ヶ崎市立病院、隔離病舎を新築 ・ 市立図書館が中海岸に完成、利用開始 茅ヶ崎レストハウスが中海岸に完成 ・ 東海道線辻堂－茅ヶ崎間下り線に超特急運転試験用の「模範軌条」建設工事開始 ・ 市内有志が大岡越前守忠相の顕彰碑建立計画 ・ 第 10 回国民体育大会開催、茅ヶ崎小学校でフェンシング、市営球場で軟式野球開催 	<p>第一回原水爆禁止世界大会</p> <p>石原慎太郎『太陽の季節』出版</p>	<p>ワルシャワ条約機構結成</p>

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 31 年 (1956)	<ul style="list-style-type: none"> ・南湖院跡地駐留軍キャンプ・チガサキが 10 年ぶりに接收解除される ・金属工場の有害排水による魚類死滅問題で、漁業組合長らが市会に陳情 ・松浪小学校開校 ・大岡祭が復活 第 1 回が盛大に行われる ・榎有恒隊長率いる第 3 次登山隊、マナスル登頂に成功 ・赤痢など伝染病発生件数減少 ・茅ヶ崎早蕨合唱団、創立 10 周年記念公演 ・東海岸市有地を売却、実測で約 1,000 坪の増加が判明 ・市営塵芥焼却場、萩園にきまる ・ガス導入申込数が目標 3,000 世帯を突破、利用組合設立へ ・茅ヶ崎市、県下初の赤字再建自主再建へ 	<p>日ソ共同宣言 (国交回復)</p> <p>神武景気到来 (1954～57 年)</p>	<p>国際連合に加盟</p> <p>第 2 次中東戦争 (スエズ動乱)</p> <p>ハンガリー動乱</p>
昭和 32 年 (1957)	<ul style="list-style-type: none"> ・市長選が行われ、内田俊一が返り咲く ・茅ヶ崎機関区の煤煙問題で、県が国鉄に抗議する ・1956 年度の決算で財政赤字が解消される ・市営球場で大洋 (現横浜) 対巨人戦開催 	<p>東海村の原子炉点火</p> <p>南極に昭和基地設営</p>	<p>ソ連、人工衛星打ち上げ</p>

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 32 年 (1957)	<ul style="list-style-type: none"> ・辻堂演習場の払い下げ問題で県の計画出る ・新しい市章決まる ・西浜中学校校舎完成 ・茅ヶ崎ゴルフ場開場 ・旧小出村遠藤南部地区の茅ヶ崎編入派は編入断念を表明 		
昭和 33 年 (1958)	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎小学校が県下のマンモス校になる ・電源開発株式会社の進出 ・国保実施 ・演習場跡地のさまざまな利用計画の一方、場内の砂の乱掘が問題になる ・急がれる道路整備 ・相模線がディーゼル化される ・茅ヶ崎駅 60 周年 ・ガス導入工事が十間坂高山通り、北口駅前通りに施工され点灯式 	一万円札発行 東京－神戸間特急こだま運転 不況到来（なべぞこ景気）	アラブ連合成立
昭和 34 年 (1959)	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎駅付近で相次ぐ脱線事故 ・中島地区に赤電話設置 ・辻堂演習地のアメリカ軍接收が解除 ・アメリカ軍のU2型機「黒いジェット機」が藤沢飛行場に不時着 ・阿弥陀三尊像（宝生寺）が国指定重要文化財に 	皇太子明仁親王（今上天皇）御成婚 メートル法実施 景気回復（岩戸景気） 国民年金法施行 レコード大賞設定	キューバ革命

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 34 年 (1959)	<ul style="list-style-type: none"> ・新町巖島神社境内にカラーテレビ受像機設置される ・河川の汚染が進む ・堤貝塚が発掘される ・国道 1 号のガソリンスタンド建設問題で、市長らが県に反対陳情 	<ul style="list-style-type: none"> ・国立西洋美術館開館 	
昭和 35 年 (1960)	<ul style="list-style-type: none"> ・茅ヶ崎小で校舎新築のための 1 円玉貯金を始める ・松浪中学校開校 ・国木田独歩の追憶碑できる ・茅ヶ崎原水協が解散 ・茅ヶ崎駅前でカラーテレビ公開 ・ゴルフ場建設について、社会党と民社党が市長に質問書 ・齋藤昌三氏に神奈川文化賞 ・相模線茅ヶ崎－西寒川線開業 ・電源開発公社など、市内に工場進出 	<ul style="list-style-type: none"> ・日米安保条約反対闘争、調印 ・国民所得倍増計画 ・カラーテレビ本放送始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ベトナム戦争始まる
昭和 36 年 (1961)	<ul style="list-style-type: none"> ・市長選で野村宣が当選 ・大岡家一族の墓所が市文化財第 1 号に指定される ・市外電話番号が「0467」に変更される ・梅田中学校が開校 	<ul style="list-style-type: none"> ・小児マヒ流行 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソ連、初の有人衛星打ち上げ ・ベルリンの壁建設

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 36 年 (1961)	<ul style="list-style-type: none"> ・浜降祭が県の無形民俗文化財に指定される ・円蔵の子供会「ともしび会」の活発な活動が注目される ・業者による海岸の砂の採取を防止 ・市民の声を市政に反映させる市民団体として「聴雨会」が結成される 		
昭和 37 年 (1962)	<ul style="list-style-type: none"> ・堤貝塚の発掘調査実施 ・交通安全へのさまざまな努力 ・梅田中学校の校舎が完成 ・湘南広域行政の研究始まる ・非行少年の更正を援助する B B S 運動茅ヶ崎地区会が発足 ・市農事放送農業協同組合が発足 ・芹沢地区「ササラ踊り」を復活 ・商店街連合会は全国初の最低賃金制導入（日給 340 円） ・市議会で平和都市宣言を決議 	貿易自由化始まる	キューバ危機 アルジェリア正式独立
昭和 38 年 (1963)	<ul style="list-style-type: none"> ・湘南遊歩道に水銀灯設置 ・茅ヶ崎に県立高校設置 ・県議選の定数増 	国鉄鶴見事故（161人死亡） 全国 P T A 協会発足 東海村で原子力発電所試験炉稼動開始	部分的核実験停止条約調印 ケネディ大統領暗殺

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 38 年 (1963)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下水道終末処理場建設へ、小和田海岸住民の反対運動 ・ 湘南大橋開通 ・ 大踏切の地下道建設に反対し、大踏切立体交差対策協議会が発足 ・ 茅ヶ崎の都市整備計画決まる ・ 茅ヶ崎市郷土資料館開館 ・ 市営し尿処理場が試験操業を開始 ・ 下水道整備事業の開始 		
昭和 39 年 (1964)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消防出初め式で児童のはしご乗りをめぐり市議と消防団が紛糾 ・ 茅ヶ崎駅北口ロータリーの改修 ・ 東海岸住民らがパシフィックホテル建設反対の陳情 ・ オリンピックに備え国道 1 号の松並木の消毒作業、防砂林の再植樹 ・ 相模川の砂利採取禁止 県立茅ヶ崎北陵高校、香川小学校開校 ・ 中学校のミルク給食始まる ・ 茅ヶ崎市地域防災計画が定められる ・ 市営清掃作業所（し尿処理場）が完成 	<ul style="list-style-type: none"> OECD に加盟 東海道新幹線開業 東京オリンピック開幕 	

	茅ヶ崎	国内	海外
昭和 39 年 (1964)	<ul style="list-style-type: none"> ・水不足により小出地区などで農作物に被害 ・オリンピック聖火、市内を通過 ・浜見平団地が完成、入居開始 		



国道 1 号での検問 : 昭和 31 (1956) 年



オリンピックの聖火リレー (第 3 区) : 昭和 39 (1964) 年 10 月 7 日

おわりに ～「くらしの記憶」を保存する～

今回の特別展は、昭和 30 年代という、昭和の中でも特に日常生活の変貌が大きかった時代をテーマに展示を企画しました。

この時代は、プラスチックなどの化学素材を使用したくらしの道具が多くなった時期でした。本展を開催するにあたり、資料収集を行いました。この時代を伝えるさまざまな日用品や電化製品、学用品などの資料は消耗品として顧みることがなされないまま失われており、残念ながら多くを収集することができませんでした。

くらしの資料は、ただ単に「懐かしい」というだけでなく、昭和における私たちのくらし記録する重要な資料です。資料の一つ一つが積み重なることで、時代を象徴する一群となり、かけがえのない文化財として認知することができるのだと考えます。

昭和が平成になり、すでに 20 年が経過しました。時代の流れる速度も加速度を増しているように感じる今日、「昭和」を記録、保存することは重要視されつつあります。また、戦後のくらしの資料を扱うことで、より多くの地域の方に資料を提供いただけるようになり、様々な年齢層の市民の方が資料を持ち寄り、地域とともに博物館をつくり上げるという試みがより可能となります。

「茅ヶ崎のくらしの記憶」を記録、保存し、次世代に伝える役割を担っていくため、文化資料館では今後も市民のみなさんと協力した活動を展開していきます。

最後になりましたが、本展を開催するにあたり展示準備などに協力していただいた資料整理ボランティアのみなさま、ありがとうございました。また、貴重な資料を寄贈していただきましたみなさまに心より感謝いたします。

平成 19 年度文化資料館特別展

「茅ヶ崎ノスタルジア 昭和 30 年代のまちかど」

会期：平成 20(2008)年 2 月 1 日～3 月 2 日

平成 20 (2008) 年 2 月発行

- 編集 茅ヶ崎市文化資料館
〒253-0055
神奈川県茅ヶ崎市中海岸 2 丁目 2 番 18 号
<http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/shiryokan@city.chigasaki.kanagawa.jp>
TEL：0 4 6 7 - 8 5 - 1 7 3 3
- 発行 茅ヶ崎市教育委員会